

今回の東京研修で、普段はなかなか関わることのできない方々と話す機会をたくさんいただき、多くの刺激を受けた。

東京に着いてすぐに行われたのは、ディレクトフォースや笹川平和財団の方々とのイベントだ。

最初に行われた近藤玄大様の基調講演で、近藤様は義手を作り始めたきっかけや今に至るまでの出来事、僕たちへのメッセージなどをおっしゃっていた。義手を作り始めたきっかけは、大学での先生との出会いだったようだ。先生のもとで働きたいと思い、義手の世界に飛び込んだとのことで、その後、3人でベンチャー企業を立ち上げ、コンテスト入賞や展示会の出展を目標に3Dプリンタを使って義手を作り始めたということだった。新しい分野への挑戦に抵抗はあったとのことだったが、目の前のことをこなしていったことで、NHKの番組への出演、さらにはコンテストの受賞などもあり、自分の周りによい流れができ、周囲の人が応援してくれるようになったそうだ。近藤様は今まで広く流通していた、肌色の本物の手のようにみせる義手ではなく、機能を重視した様々な色の義手を作っている。

この理由として、近藤様は、義手でも個性を表現できるようにしたかったとのことだった。僕たちへのメッセージとして、①手、足、頭を動かしてあらゆることに挑戦する。②色々な考え、価値観、人に触れる。③何をやるかよりどうやるか。という3つのことをおっしゃっていた。また、新たな発見ができるかもしれないということで、海外留学など、自分の周りの環境を変えることをおすすめしていた。

僕は近藤様の講演を聞き、新しい挑戦は大切だと感じた。今まで義手は本物の手に似ているほうがよいと思っていた。しかし、個性を表現するという点では様々な選択肢があったほうがよい、そのことに気づき、実行した近藤様は発想力、行動力ともに兼ね備えたすごい方なのだなど改めて思った。今の常識にとらわれず、自分の信念に基づいて果敢に挑戦していきたいと感じた。

次に3人の講師の方々、相馬円香様、川崎有治様、林茉莉子様とのグループセッションを行った。

相馬円香様とお話で、事業をするうえでのポイントをおっしゃっていた。人、お金、時間の投資がうまく、物事を0から始めることができ、他人との違いを認めつつ自分の主張ができる人は事業で成功しやすいそうだ。また、どんな環境でも、相手がどんな人であっても、自分を曲げずに“自分は自分”という考えを貫くことが大切だとおっしゃっていた。

川崎様とお話では、日本と外国との違いやグローバルリーダーに求められる資質などをうかがった。外国との違いで、特にアメリカやヨーロッパの国々では以心伝心は通じな

いとのことで、そのような国の人々との仕事では念を押すこと、議事録やメモを残すこと、お互いにサインをすることが大切だということだった。グローバルリーダーに求められる資質としては、周りから信頼されることが一番ということだった。そのためには、英語を流暢に話せるだけでなく、教養を身につけたり、知識の量を増やし、論理的思考力を鍛えたりすることが大切だとおっしゃっていた。

林様とお話では NGO で活動するときに意識していることや、自分の意見を確立させる方法などについてうかがった。林様は NGO で、移民や難民の生活支援活動などを行っている。移民が暮らしやすい環境とは、移民が地域のコミュニティの一員だと思えるような環境を作ることだと林様は考えられていて、そのような環境を作るためには、自分も暮らしやすいと感じられることが一番だとおっしゃっていた。自分の意見を確立させる方法としては、世の中に出回っているあらゆる情報を調べてみるのがよいとのことだった。例として、「移民が増えると犯罪が増える」という情報についてお話いただいた。これは確かに正しいが、その“犯罪”で一番多いのがビザの失効による違法滞在だということだった。これは当たり前だが日本にいる日本人には起こりえない話であり、それらを含めて比べるのはどうなのかという疑問を持たれていた。

僕は 3 人の方々からお話を聞き、共通している点があると思った。それは海外で生活、あるいは働いた経験を現在に生かしているということだ。様々な文化を肌で感じ、たくさんの人と交流し、幾多の困難を乗り越えてきたことで、物事を多方面から考え、自分の意見をちゃんと主張することができるようになったのではないかと思った。また、日本にいただけでは身につかない考え方、価値観などをもっていることに魅力を感じた。今回のグループディスカッションの経験は今まで一度も日本を出たことがない僕にとって、とても興味深い内容だった。以前までは海外留学にはあまり関心がなかったが、今回の経験を通して将来してみたいと思うようになった。また、話し合いの場などで受け身にならず、進んで自分の意見を主張するようにしたいと思った。

午後には企業・大学訪問ということで、僕たちは厚生労働省を訪問した。今回は、話を聞くだけで施設見学などはできなかったが、現在の医療の状況について貴重なお話を聞いた。僕からは、AI の医療分野への進出についてうかがった。回答としては、外科手術での使用は難しいとのことだったが、介護の現場では使えるのではないかということだった。例えば、認知症の患者の介護は同じ話を何度もしなければならなかったり、何度も同じことを聞かれたり、介護をする人にもストレスが溜まってしまう。そのような場面での AI ロボットの使用はこれからありうるのではないかとのことだった。

夕食後には二高 OB・OG の東大生との座談会が行われた。僕は 4 人の OB のの方々からお話をうかがった。4 人の共通点で意外だなと感じたのは、勉強ばかりしていたわけではないということだ。中には高 2 までにはほとんど週末課題とテスト勉強だけしかやっていなかつ

たという人もいた。また、東大の特徴である、入学後に進学する学部を選べる進学選択の制度や、勉強についてのお話も聞いた。勉強の話としては、やはり英単語は“鉄壁”を使っていた人が多かったそう。有名進学塾である鉄緑会に触れることができる数少ないテキストの一つということもあるそうだが、何より覚えやすいという意見が多かった。また、高一から英語と数学だけは最低でもきっちり固めておいたほうがよいということも言っていた。他にも東大での生活や、大学入試を乗り越えるために必要な力などについてもお話を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができた。

2日目は東大の駒場キャンパス、本郷キャンパスの見学や東大生との質疑応答をしたり、模擬講義を受けたりした。僕は東大に行くのは初めてだったので、見るものすべてが新鮮に感じた。東大生との質疑応答でも東大生と話す機会があった。普段の勉強で使っていた参考書や学校の授業にどのように取り組んでいたのかなどについてうかがった。どの東大生にも共通していたのは、自分に合っているものが一番ということだった。英単語の覚え方一つにしても英文から覚えたり、単語帳で覚えたりと個人個人が一番やりやすいやり方を見つけて実行しているのだなと感じた。模擬講義は法学部の講義を受けた。専門用語も出てきて難解な内容だったが、大学の、しかも東大の講義の雰囲気を感じることができ、貴重な体験だったと思う。

今回の東京研修では、世界で活躍されている方々、国家公務員、東大生など様々な分野の第一線にいる人たちと話す機会がたくさんあった。この東京研修を機に視野が大きく広がったと思う。また、これからの生活、勉強で参考になることもたくさん聞くことができた。今回の貴重な経験を無駄にせず、これからの生活に生かして、自分自身をさらに成長させていきたい。